

[第1号議案]

## 1-1. 2022 年度事業報告書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての活動の整理
5. 実施事業2：コロナ対策（学生企画）
6. 実施事業3：DB 関連シラバス調査
7. 実施事業4：最強データベース講義プロジェクト
8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）
9. 実施事業6：DEIM
10. 実施事業7：企画
11. 実施事業8：産学連携推進
12. 実施事業9：論文誌編集
13. 実施事業10：表彰
14. 実施事業11：情報システム
15. 実施事業12：電子広報編集
16. 実施事業13：ダイバーシティ推進
17. 補足説明：学会改善に関する取り組み活動報告（2022 年度）

その他・附属明細書

# 2022 年度事業報告

---

## 1. 概況

---

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2022 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 2 年目であった。2021 年度に制定した各種規程に基づき、学会活動を定常化するとともに、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行った。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与した。

---

## 2. 会員数について

---

2021 年度末の会員数は、正会員 569 名、学生会員 194 名、維持会員 26 社だった。DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、2022 年度に入ってから、DEIM2022 参加者から正会員 238 名、学生会員 373 名が新たに入会し、2022 年度の総会前の会員数は正会員 822 名、学生会員 503 名、維持会員 26 社であった。その後、徐々に増加し、2022 年度末では、正会員 850 名、学生会員 561 名、維持会員 27 社である。

	2021 年度末	総会前	2022 年度末
正会員	569 名	822 名	850 名
学生会員	194 名	503 名	561 名
維持会員	26 社	26 社	27 社

---

## 3. 会議等に関する事項

---

下記の会議を実施した。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた。

### 3.1 2022 年度 定時総会

2022 年 6 月 24 日(金)に武蔵野大学有明キャンパス 1 号館 1 階 1-509 号教室とオンラインによるハイブリッドで開催した。

### 3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り、計 8 回、すべてオンラインにて開催した。

第 12 回：2022 年 6 月 9 日(木)      第 13 回：2022 年 6 月 22 日(水)

第 14 回：2022 年 6 月 24 日(金)      第 15 回：2022 年 7 月 27 日(水)

第 16 回：2022 年 10 月 3 日(月)      第 17 回：2022 年 12 月 7 日(水)

第 18 回：2023 年 1 月 31 日(火)      第 19 回：2023 年 3 月 24 日(金)

維持会員が参加する評議委員会を 2022 年 8 月 31 日(水)にオンラインにて開催した。

その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した。

---

## 4. 実施事業 1：一般社団法人としての活動の整理（定款第 4 条第 1 項 8 号）

---

担当：総務委員会・財務委員会

### 【活動概要】

#### 4.1 学会運営の継続性の検討

2022 年 6 月 24 日の総会において、現在の理事全員が任期満了となり交代となるため、理事を選定する役員選挙を 4 月 4 日～29 日に実施し、全 39 名が選ばれた。2022 年定時総会で役員および監事の就任および重任を行い、直後に開催した第 14 回理事会にて総会で就任した理事から代表理事を選出した。

理事交代の方法を改善することで実施事業の継続性担保を検討する予定であったが、現状のままでも理事交代を行うことでも問題ないと判断し、交代方法の見直しは行わなかった。

#### 4.2 会員・会費制度改正

当初財務委員会で検討を始めたが、情報システム委員会、学会連携委員会からのメンバーを加えて正会員会費 WG を設立し、計 6 回の WG を開催し、正会員の会費のあり方、学生会員のあり方について議論し、定款、関連規程の改定案を作成した。

#### 4.3 委員会の整理

定款第4条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会構成の見直し、副会長5名が11委員会の委員長を務め、特命副会長3名がそれぞれの委員会の委員長となる体制で学会運営を推進した。

#### 4.4 事務局機能の強化

学会運営を円滑に遂行するため、学会活動に精通した人材を雇用することを検討した。会長・副会長の6名で構成される事務局長設置WGを設置し、議論を進め、事務局規程および事務局業務内規を作成した。また、パートタイム職員雇用に必要な就業規則等の作成を外部社労士に依頼し、パートタイム職員就業規則、パートタイム職員賃金規程等、必要な規程・書類を整備した。

各種規程、内規が理事会で承認され、2023年4月1日より施行する。

#### 4.5 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第4条第1項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めるために、日本データベース学会運営の課題を洗い出し、理事会終了後に時間を設け、若手の学会運営参画、中高生へ会員拡大などについて議論した。

#### 4.6 一般社団法人設立記念事業

一般社団法人設立記念事業ではないが、DBSJ設立20周年を記念して、2022年12月5日に、DBSJ20周年記念イベントをオンラインにて開催した。参加者は89名（Zoom参加者55名、Youtubeライブ視聴者34名）であった。

---

## 5. 実施事業2：コロナ対策（学生企画）（定款第4条第1項4号）

---

担当：企画委員会

本事業の目的は、コロナ禍等の厳しい社会状況の下、DBSJの学生を活性化・支援することである。いわゆる一般的な支援ではなく、DBSJとして、学生が成長できる活動の機会を提供する。学生自身が興味を持てる企画を自ら立案し、実行する。

### 【活動概要】

#### (1) 学生によるライブ配信プロジェクト

アフターコロナ（With コロナ）」を始めとするさまざまな話題について、学生とDBSJ内の重鎮、若手の研究者・技術者が熱く議論する。学生同士のディス

カッションなども実施した。

- 2022年度第1回 DBSJ 学生企画 第九弾 (7/27(水) 20:00～21:00 開催)

AWS 鮫島さんに聞く！

～アカデミアと AWS、それぞれの機械学習との向き合い方～

- 2022年度第2回 DBSJ 学生企画 第十弾 (11/25(金) 20:00～21:00 開催)

京都大学 吉川正俊 教授に聞く！

～若い研究者に向けたメッセージ～

- DEIM2023 連携イベント (ナイトセッションを2部構成で企画・運営)

(1) 私の企業のココがすごい!!

～開発や研究など、テック企業でのリアルな働き方を知ろう～

(2) DEIM 特別講演 研究者×起業

～研究をビジネスにつなげる～

- (2) コロナ禍の中で学生支援として、アルバイトという形で学生支援を行う。

担当学生にはイベント毎にアルバイト謝金(2万円)を支給すると共に、コロナ禍において制限されてきたアカデミアおよび企業の研究者との交流の機会を補うため、学生達にとってロールモデルとなるような研究者との交流イベントの開催を学生自身に企画運営してもらいつつ、その活動をアドバイザーが支援した。

---

## 6. 実施事業3：DB 関連シラバス調査 (定款第4条第1項8号)

---

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、日本の大学における DB 教育の底上げに DBSJ が貢献することを目指し、現在の実態調査を行うと共に適切な教育コンテンツの提供に取り組むことである。

### 【活動概要】

比較的初学者(学部生)を対象とした DB の基礎講座

①DB 教育に利用されている書籍や講義資料の調査

②対象者に合わせた内容の検討(必要に応じてシラバス追加調査含む)

講座形態の決定、講師との打ち合わせなど

関係者で打ち合わせを実施し、8月中旬以降に仕切り直して検討することを確認。  
最強データベース講義プロジェクトの下で実施する方向。  
現状のデータベース教育の課題の調査から開始予定。

---

## 7. 実施事業4：最強データベース講義プロジェクト（定款第4条第1項1号 および第7号）

---

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならでの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

### 【活動概要】

- (1) 基本方針：コンテンツの定期的な追加とコンテンツ活用の推進
- (2) 具体内容
  - ① 講義コンテンツの作成と配信
  - ② 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
  - ③ タグ付けや講義間の関係などの整備
  - ④ コンテンツを利用した勉強会等派生イベントの検討

### 【今年度の実績】

- 4月27日 #15 ハイパーテキストの歴史：Memex から Web まで（田島敬史先生）  
申込者数 59 名（学生 2, 一般 57）
- 5月25日 #16 PostgreSQL アーキテクチャの概要（長田悠吾氏）  
申込者数 222 名（学生 13, 一般 209）
- 6月29日 #17 ビッグデータ利活用のためのデータ解析・可視化（豊田正史先生）  
申込者数 114 名（学生 2, 一般 112）
- 7月20日 #18 情報保護を前提としたデータの集積と解析（横田治夫先生）  
申込者数 115 名（学生 9, 一般 106）
- 8月31日 #19 PostgreSQL の拡張機能（山田達朗氏）  
申込者数 120 名（学生 5, 一般 105）
- 11月30日 #20 ネットワークトラフィックデータ解析（小口正人先生）  
申込者数 77 名（学生 4, 一般 73）
- 12月21日 #21 計算機の進歩とデータベース技術の進化（宮崎純先生）  
申込者数 91 名（学生 12, 一般 79）

1月18日 #22 住まい探しの利便性向上にデータベース・情報アクセス技術が果たした役割  
(清田陽司氏)

申込者数 66名(学生3, 一般63)

2月22日 #23 機械学習回帰における Shapley 値の活用法(白田由香利先生)

申込者数 59名(学生5, 一般54)

3月8日 DEIM2023 チュートリアル(いずれも120名程度の参加)

差分プライバシーによるクエリ処理の基本・実践・最前線(高橋 翼氏)

株価分析のための時系列データクラスタリング入門(白田由香利先生)

グラフ深層学習のすゝめ。(前川政司先生, 佐々木勇和先生)

- connpass グループ登録者数(2023年3月17日現在): 1338名

- Youtube チャンネル登録者数(2023年3月17日現在): 5430名

---

## 8. 実施事業5: データ作法(セミナー等)(定款第4条第1項1号および5号)

---

担当: セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータに関する法律を熟知し、法律に準拠したデータの取り扱いやデータを活用した研究開発の推進を支援することである。

本年のテーマ:

ビッグデータ処理技術やAI技術の発展に伴って、データ指向の研究が様々な分野に広がっている。医学系の分野においてもデータ指向型の研究開発が進められているが、医学系の研究においては様々なガイドラインや倫理審査などを経なければならない。本セミナーでは情報学分野の研究者が医学系研究を行うにあたり、注意すべきポイントや処理について法的な課題のみならず学術研究や企業でのシステム開発における講演いただくと共に、実践的な課題と対応などについてパネルにて議論を行う。

第1回セミナー:

開催日時 2022年10月24日(月) 13:00-17:00

セミナータイトル「情報系研究者のための医学系研究における倫理や法的課題について」

・講演者

板倉 陽一郎 氏(ひかり総合法律事務所 パートナー弁護士)

・講演タイトル

学術研究「生命科学・医学系研究」「観察研究」の趣旨を踏まえた個人情報保護

法上のスキーム構築

・講演者

岸本充生氏(大阪大学 社会技術共創研究センター(ELSI センター)センター長)

・講演タイトル

パーソナルデータ利活用のための研究開発から社会実装までの倫理的・法的・社会的課題 (ELSI) への取り組み

・講演者

上條 憲一氏 (NEC デジタルヘルスケア事業開発統括部 上席ヘルスケア技術主幹)

・講演タイトル

医療 AI の研究開発に向けた医学系データの取扱いについて-内視鏡画像解析 AI を事例として

・パネル討論

テーマ：医療・ヘルスケアデータを扱う情報系研究の活性化に向けた倫理や法的課題と展望

パネリスト：横田 治夫会長（モデレータ）、  
板倉 陽一郎 氏、岸本 充生氏、上條 憲一氏、

開催方式 Zoom Webinar

参加者募集方式 Connpass にて申し込み 無料

参加者 約 80 名

---

## 9. 実施事業 6：DEIM（定款第 4 条第 1 項 1 号）

---

担当：イベント委員会

本事業の目的は、DB コミュニティの活性化及び拡大化のための中核をなすイベントとすることである。2022 年度はコロナ禍において DEIM2023 は新たに直列型ハイブリッドを行い、コミュニティの活性化をはかった。

### 【活動概要】

DEIM2023

トピック

- ①「ネット利用も可能にし、3密を避けた学会運営」を目指し、現地とオンラインの直列型ハイブリッドにて開催。
- ②参加者の中で希望する人に対して DBSJ 会員とした。



③種々の業務を見直し、学会運営の簡素化を図った。

④オンライン上のコミュニケーションによるハラスメント対策を行った。

直列型ハイブリッド（オンライン Zoom と長良川国際会議場）

オンライン：3月5日～7日 口頭発表

対面：3月8日（午後）チュートリアル（1件だけ海外からビデオ3月5日）

3月9日（10:00-15:00）ポスター、

3月9日（15:15-17:00）DBSJ アワー(3/9 午後)

投稿状況

論文投稿数：408件（昨年360件）

ロング341件，ショート71件，直前キャンセル4件

チュートリアル：6件（昨年7件）

ポスター：399件

スポンサー 19社：プラチナ8社、ゴールド9社、シルバー2社

維持会員16社，非維持会員3社

参加者数：799名

新規会員登録：300名（一般24名，学生276名）

論文投稿費：1万円/件

参加費：一般1万円，学生1000円

---

## 10. 実施事業7：企画（定款第4条第1項1号）

---

担当：イベント委員会・国際連携委員会

本事業の目的は、DBコミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントを実施することである。2022年度は、社会状況とイベントの規模等を考慮しながら、現地開催、オンライン開催、ハイブリッド開催を随時判断して行く。

### 【活動概要】

(1) 第13回ソーシャルコンピューティングシンポジウム

The 13<sup>th</sup> Social Computing Symposium (SoC 2022)

日時：2022年6月24-25日

場所：武蔵野大学有明キャンパス（オンラインとのハイブリッド開催）

主催：日本データベース学会（DBSJ）

電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会

ACM SIGMOD-J

協賛：情報処理学会 データベースシステム研究会

ARG Web インテリジェンスとインタラクション研究会

2021 年度はシンポジウムのみで開催となったが、2022 年度は DBSJ 総会等との  
合同開催

発表件数：6 件

招待講演：2 件（益村泉月珠氏（広島テレビ）、島田敬士氏（九大））

パネルディスカッション：生存情報学とダイバーシティ

（司会：橋本隆子（千葉商科大学）、パネラー4名）

(2) 先端的データベースと Web 技術動向講演会

(ACM SIGMOD 日本支部大会)

日時：2022 年 6 月、10 月、12 月

主催：日本データベース学会（DBSJ）

ACM SIGMOD-J

6 月は SoC 等との合同開催、10 月と 12 月は単独開催（オンライン）

(3) WebDB 夏のワークショップ(DBS/IFAT/DE 合同研究会)

日時：2022 年 9 月 9 日－10 日

場所：富山県民会館（611, 612, 704 号室）＋ オンラインのハイブリッド開催

テーマ：ビッグデータを対象とした管理・情報検索・知識獲得および一般

発表件数：44 件（DBS：27 件，IFAT：9 件，DE：8 件）

その他トピック：

- ・情報処理学会コンピュータサイエンス領域功績賞受賞記念講演：  
データベース基盤はメタバース？ 中野 美由紀（津田塾大学）
- ・若手招待講演 1：  
プライバシーウェアなデータサイエンスの実現を目指して  
高橋 翼（LINE 株式会社）
- ・若手招待講演 2：  
好奇心に駆られたユーザ行動研究のつまみ食い  
梅本 和俊（東京大学）

(4) Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

日時：2022 年 12 月 2 日（金）－3 日（土）

オンライン実施（Zoom）、Jecheon（堤川市）、Korea

参加者（登録者） 合計 92 名 日本側 49 名 韓国側 43

(5) 日中ワークショップ

2022 年度はコロナ禍の影響で残念ながら開催できなかった

---

## 1 1. 実施事業 8 : 産学連携推進 (定款第 4 条第 1 項 3 号)

---

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間における技術的ないしは人的な交流を促進することで、産業全体の発展を目指すことにある。2022 年度においても引き続きインダストリアルからプロダクトやデータを提供し、それらを活用頂くプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図った。

### 【活動概要】

#### (1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

- ・ 東芝デジタルソリューションズ：GridDB

- ・ 3 件の利用申請があり、それぞれを承認、研究に活用いただいた

#### (2) データ提供型アカデミック支援プログラム (IDR ユーザフォーラム)

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ (以下、IDR) に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究の促進を図った。本プログラムの参加者は、研究テーマを自由に設定し、2022 年 12 月に開催された IDR ユーザフォーラム 2022 にて成果を報告した。また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与、副賞として同年度の DEIM (2023 年 3 月に開催した DEIM2023) に招待し、口頭発表の機会を提供した。

なお、IDR ユーザフォーラム 2022 の概要は下記の通りである

#### 【開催日】

2022/12/6 (オンライン)

#### 【発表件数など】

24 件の研究発表、参加人数は約 280 名

#### 【DBSJ 特別賞】

『KoSign データを拡張するための Data Augmentation 手法の検討』

会津大学 中村友里也 (DEIM2023 にて口頭発表)

#### (3) 連携企業の拡充

様々な企業が持つテクノロジーやデータの活用といった機会を、より多くの方に提供

していくことは DBSJ の使命の一つと考える。2022 年度においては、DBSJ とのコラボレーションに賛同いただける企業を拡充すべく、IDR ユーザフォーラムや DEIM 等のイベントの場を通じて、複数の企業担当者とのコミュニケーションを重ねた。

---

## 1 2. 実施事業 9：論文誌編集（定款第 4 条第 1 項 2 号）

---

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

### 【活動概要】

日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行に加え、データ駆動型の研究に焦点を当てた新たな切り口の論文誌「データドリブンスタディーズ」を新規に発行する。

- (1) 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行
  - ① 自由投稿および DEIM 2022 からの推薦論文を対象
  - ② 和文論文誌（Vol. 21-J）と英文論文誌（Vol. 21）の発行  
和文論文誌に論文 3 編、英文論文誌に論文 1 編を採録した。
  - ③ 2021 年度論文賞の選定  
人間+AI Crowd の相互作用によるタスク結果品質の管理手法  
小林正樹，若林啓，森嶋厚行  
日本データベース学会和文論文誌 Vol.20-J, Article No.2, 2022 年 3 月
- (2) 新たな論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
  - ① 編集体制および編集プロセスの整備
  - ② 自由投稿の呼びかけ、DEIM 2022 からの推薦、論文投稿の依頼
  - ③ 今年度は 8 月をめどに当初の論文を採録・掲載する。その後 2023 年 3 月までの採録分を合わせて第 1 巻とする。  
論文 7 編（すべて和文）を採録した。

---

### 1 3. 実施事業 1 0 : 表彰 (定款第 4 条第 1 項 8 号)

---

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

#### 【活動概要】

1. 功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞に関する「他薦、自薦」の案内を行った。  
dbjapan において推薦依頼を行ったが、今回は特に推薦はなかった。

2. 表彰委員の依頼、委員会を立ち上げる、各賞の選定を終え、DEIM2023 (2023 年 3 月 9 日) に表彰式を開催した。

今年度の受賞者は以下の通り。

特別功労賞 喜連川 優 氏 (国立情報学研究所)

若手功績賞 湯本 高行 氏 (兵庫県立大学

義久 智樹 氏 (大阪大学)

神崎 映光 氏 (島根大学)

上林奨励賞 李 吉屹 (Jiyi Li) 氏 (山梨大学)

佐々木 勇和 氏 (大阪大学)

リュウ センペイ (Seng Pei Liew) 氏 (LINE 株式会社)

---

### 1 4. 実施事業 1 1 : 情報システム (定款第 4 条第 1 項 6 号)

---

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。2022 年度は会員データベースの再設計・構築を行い、システムを刷新し、より安定的な運用をはかる。

#### 【活動概要】

(1) 会員システムの改修・再設計

① 会員システムの再設計・構築

② 専用システムから汎用ソフト・クラウドサービス利用への転換

③ セキュリティ対策

(2) Web・会員 DB の運用・維持

- ① 会員システムの安定運用
- ② 各種メディアを利用した広報

---

## 15. 実施事業12：電子広報編集（定款第4条第1項2号）

---

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

### 【活動概要】

2022 年度は、以下の Newsletter の刊行を行う。

- ① 発行巻号：Vol. 15、No. 1～8
  - ② 掲載記事計画：
    - ・ 定期(隔月)6号：国際会議参加報告および会議開催報告など
    - ・ 企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声
    - ・ 企画②：若手研究者の声など
- 
- 4月1日 Vol. 15, No. 1: DEIM 2022, 令和3年度データ解析コンペティション DB 部会, WSDM 2022, AAAI 2022
  - 5月2日 Vol.15, No.2: 日本データベース学会受賞特集号
  - 6月1日 Vol. 15, No. 3: DASFAA 2022, SDM 2022, ICDE 2022
  - 8月1日 Vol. 15, No. 4: TheWebConf 2022, SIGMOD 2022, ICMR 2022
  - 10月1日 Vol. 15, No. 5: ICML 2022, KDD 2022, ICPR 2022
  - 11月1日 Vol. 15, No. 6: 若手研究者対談企画号
  - 12月1日 Vol. 15, No. 7: ACM RecSys 2022, ACM Multimedia 2022, COLING 2022, ACM CIKM 2022
  - 2月1日 Vol. 15, No. 8: IEEE BigData 2022, iiWAS 2022, ICADL 2022

以下の Newsletter の刊行に向けて準備を進めている。

- 4月1日 Vol. 16, No. 1: DEIM 2023, NeurIPS 2022, AAAI 2023

---

## 16. 実施事業 13：ダイバーシティ推進（定款第4条第1項4号および8号）

---

担当：ダイバーシティ・ハラスメント委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的な人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。今年度は、ダイバーシティ推進のための活動の見直し・検討、さらにDEIMを中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する。

### 【活動概要】

#### (1) ダイバーシティ推進事業

- ① 後援：IEEE WIE 2022 他
- ② 活動計画の見直し・検討 ⇨ パネル等の実施

#### (2) ハラスメント防止委員会

- ① DEIMなどでのハラスメント防止活動 → 案件対応
- ② 学会におけるハラスメント防止のための検討

SoC2022において、パネルディスカッションを実施。

日時：6/25（土）13:00 - 14:30

タイトル：生存情報学とダイバーシティ

登壇者：灘本明代（甲南大学）、佐々木史織（武蔵野大学）、清田 陽司（LIFULL）、森田香菜子（国立森林総合研究所）

司会：橋本隆子（千葉商科大学）

内容：AIやロボット、サイバネティックアバターなどによって多様化し複雑化するサイバー・フィジカル社会において、自然環境（Environment）、社会のしくみ

（Social）、企業・自治体の統治（Governance）を俯瞰し、個人（Individual）のWell-beingも考慮しつつバランスの良い持続可能な生存を確保する新しい情報学（生存情報学）とその未来を考えた。特に生物多様性と情報学の関係やその将来性など、興味深い議論があった。

参加者：現地 20名弱、オンライン 15名程度

---

## 17. 補足説明：学会改善に関する取り組み活動報告（2022 年度）

---

担当：総務委員会

### 1. 概要

日本データベース学会が設立されてから20年、さらに、一般社団法人となってから1年余が経過した。そこで、これまでの学会運営を振り返り、本学会をより発展させていくために理事や会員の皆様から幅広い視点での改善提案を伺い、学会運営に反映させることとした。2022年度は、まず、理事会において学会改善に関する議論を実施した。改善のテーマとして様々な提案があったが、その中から、学会運営に携わる若手研究者・開発者をどう増やすかを最初のテーマとして取り上げ、議論した。今後、他のテーマについても継続的に議論する。

### 2. 活動経緯

#### ① 第1回議論@第15回DBSJ理事会（2022/7/27）

議論の進め方について審議し、改善すべきテーマをオンラインホワイトボードツール「Miro」を利用してディスカッションすることとなった。

#### ② 第2回議論@第16回DBSJ理事会（2022/10/3）

各委員長から改善提案に関するテーマをMiroに事前登録していただき、理事会でどのテーマに取り組むかを議論。若手研究者・学生会員に対するアプローチ、ダイバーシティ推進、産学連携強化、学会運営改善などに関連するテーマが提案された。その中から、石川副会長がご提案された「学会運営に携わる若手研究者・開発者をどう増やすか。どうやって招待するか、ベネフィットとして何が与えられるか」を最初に議論すべきテーマとして取り上げた。

#### ③ 第3回議論@第18回DBSJ理事会終了後（2023/1/31）

監事の方からも意見を頂くため、理事会終了後に4-5人の小グループに分かれ、ZoomのBreakoutルームで議論。高校生・中学生もターゲットに若手のすそ野を広げる方法や企業の若手に参加していただく取組等について意見交換。

### 3. 今後の進め方

頂いた意見を正会員WGで引き取り、継続議論とした。正会員WGでは、現在大学・高等専門学校までとしている会員規定を中高生にまで広げるべく定款の改訂を実施することとした。そのうえで、2023年度以降継続して、学会運営に携わる若手研究者・開発者をどう増やすか、どうやって招待するか、ベネフィットとして何が与えられるかを検討することとなった。今後、他のテーマに関しても継続して議論する。



---

---

その他・附属明細書（法定記載事項）

---

---

その他、事業内容を補足する重要な事項はありません。

以上